

# 【高等学校「情報Ⅰ」 情報デザイン オリジナルの本の帯の制作】①

岐阜県

## 学習指導と学習評価の工夫・改善点の概要

オリジナルの本の帯の制作を通して、効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの考え方や方法に基づいて表現し、評価し改善する力を身に付ける。

## 評価規準

【知】効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの考え方や方法を理解し表現する技能を身に付けている。

【思】効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの考え方や方法に基づいて表現し、評価し改善することができる。

【態】効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの考え方や方法に基づいて、本の帯を制作し、評価・改善を繰り返しながらよりよいものを作成しようとしている。

## 学習指導と学習評価の工夫・改善の具体的な取組

導入・企画  
情報デザインの基礎

帯の制作  
相互評価①

帯の制作・改善

相互評価②

読書の好きな生徒が多く、学習目標の「効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの考え方や方法に基づいて表現し、評価し改善すること」を「オリジナルの本の帯の制作」を通して身に付ける。また、ICT環境の活用として、生徒が所有するタブレット端末、帯の制作のソフトウェアにOffice製品のMicrosoft Word、課題の配付と提出にmanabaを活用した。

「オリジナルの帯の制作」の設計・制作・実行・評価・改善を繰り返すワークグループを行うために、机が広く、パーテーションも設置してある図書館で活動をした。また、図書館の利用は学習内容との相性も良く、生徒は実際の本の帯を参考にすることもできた。また、情報教育の横断的連携として、導入・情報デザインの基礎では、国語科との関連を図り「羅生門」の帯を制作する場面を設定した。全員が学習している内容のため帯の制作時間の短縮につながった。

学習評価については、評価規準をより明確にするためルーブリックによる評価を行った。

# 【高等学校「情報Ⅰ」 情報デザイン オリジナルの本の帯の制作】②

## 【ワークシート等】

制作用プリント

相互評価によるメモ

## 【生徒の作品】

### (1) 導入・企画 (1時間)

課題「オリジナルの本の帯を制作」を伝える。実際にメディアに流通している帯の付いた本をいくつか紹介して、完成形をイメージさせる。実際の制作に入る前に、練習として、「羅生門」の帯の制作から進めた。まずは、帯に書く文章を考えさせた。

### (2) 情報デザイン基礎 (1時間)

羅生門の帯の文章のクラス代表を決定し、クラス代表の文章を基に各自で帯を制作させる。同じ文章と同じ本の表紙にすることで、デザインの違いがでるので学習目標が明確になる。制作する前に、情報デザインの基礎として、「文字の読みやすさ」「フォント」「配色」について説明し、それらを踏まえて、羅生門の帯のデザインから進めた。

### (3) コンテンツ制作① (1時間)

Wordでの帯の制作方法を説明し、羅生門の帯の制作に入る。

### (4) 相互評価①

生徒同士の相互評価を正確に行うため4人グループを構成し、グループ毎の総合評価で競い合う形式にした。グループ内で率直な評価ができる雰囲気になることをねらった。

### (5) コンテンツ制作② (1時間)

今回の課題である「オリジナルの本の帯を制作」に入る。

### (6) 相互評価②、コンテンツ制作② (2時間)

作品をグループ内で中間相互評価し、改善を繰り返す。評価規準をより明確にするためルーブリックによる評価を取り入れている。

### (7) 相互評価② (1時間)

クラス全員で評価し、クラス代表を決定する。

**「共通教科情報科「情報Ⅰ」の学習指導と学習評価の工夫・改善について」**

「情報デザイン オリジナルの本の帯を制作」では、学習目標である「効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの考え方や方法に基づいて表現し、評価し改善する」という生徒の姿がみられた。また、評価につながる工夫としては、グループ毎の総合評価で競い合う形式にすることで、グループ内での積極的な意見交流や相互評価が行われ、個々の帯の制作の改善につながっていた。

授業の計画にあたり、ルーブリックの評価規準の設定について情報科の見方・考え方を働かせ、より質の高い制作につながるように具体的な内容とすることが必要である。また、国語科の「羅生門」の学習時期を考慮して、教科等横断的な視点での学習の充実を図ることが必要である。